

成果の説明書

(氏名) 木暮 律子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>①専門日本語教育のための基礎調査及び教材の作成</p> <p>『地域政策学事典』に出現する漢字語彙の調査を行い、地域政策学を学ぶ留学生のための漢字教材を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none">・『地域政策学事典』における漢字語彙の分析－二字漢語を中心に－『地域政策研究』第21巻第1号 pp.1-11・『地域政策学を学ぼう 漢字ワークブック I 《単漢字》』・『地域政策学を学ぼう 漢字ワークブック II 《二字漢語》』 <p>②多文化共生マインドの育成に向けたグループワークに関する調査</p> <p>「異文化コミュニケーション」の講義で実施したグループワークの調査を行い、授業の実践と分析結果について報告した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「多文化共生マインドの育成を目指した授業の実践と課題－日本語弱者の視点に立ったグループワークを通して－」異文化コミュニケーション学会国際大会および第33回年次大会・「「やさしい日本語」の指導に向けた一考察－日本人学生を対象とした調査をもとに－」『地域政策研究』第21巻第2号 pp.15-33・「日本語弱者の視点に立ったグループワークの試み－多文化共生マインドの育成を目指した授業の実践と課題－」『地域政策研究』第21巻第3号 pp.55-71 <p>【教育活動】</p> <p>①留学生のためのパソコン講習会の実施</p> <p>高橋美佐准教授とともに、留学生のためのパソコン講習会を実施し、日本語版Windowsの操作やコンピュータ用語、日本語入力の方法について指導を行った。</p> <p>②ゼミナール活動</p> <p>◇3年生：グループ研究の実施</p> <p>「演習I」では、毎年グループで研究に取り組んでおり、研究テーマの設定から調査の計画・実施、報告まで学生が主体的に進めている。今年度は2つのグループに分かれ、「東京オリンピック・パラリンピックにおける現状と対応」、「外国人観光客がゲストハウスに求めるもの」というテーマでそれぞれ調査を実施した。グループ研究の成果は、卒業論文集に調査報告書としてまとめ、春休みのゼミ合宿で発表した。</p> <p>◇2年生：留学生のための部活動・サークル紹介の作成</p> <p>2年生を対象としたプレゼミ活動において、新入留学生のために部活動・サークル活動を紹介する冊子を作成した。部活動やサークルに所属する留学生にインタビューを行い、34団体の活動内容や費用、連絡先等の情報についてまとめた。</p> <p>③アクティブ・ラーニングの実践</p> <p>「多文化共生論」の講義において、学生自らが問題を発見し、解決に向けた課題を議論する活動を取り入れることにより、学生の能動的な学びを引き出していけるように工夫した。また、ワークシートの提出を通して受講生の理解度をはかり、学生が持つ疑問を授業展開にも反映させるよう努めた。</p> <p>④異文化コミュニケーション能力の育成</p> <p>「異文化コミュニケーション」の講義において、留学生と日本人学生による異文化間協働のグループワークを実施し、日本語弱者の立場に立った話し方・書き方の実践的なトレーニングを行った。</p>	

【社会活動】

地域政策学会監事（平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

2 その他の事項

・『留学生生活応援ブック』の作成：この冊子は大学生生活に必要な日本語表現や高崎市の生活情報を、留学生にも理解しやすいやさしい日本語で解説したもので、ゼミ活動の一環として 2009 年より作成している。一部内容の改訂を行い、新入留学生 22 名に配布した。

・「外国人学生のための進学説明会」参加：日本学生支援機構(JASSO)主催の進学説明会に参加し、日本の大学に進学を希望する外国人学生に対して、本学の特色や学生生活、入試等に関する情報の提供を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

地域政策学の視点から高校教科書やカタカナ語の調査を行い、専門日本語教育のための聴解教材を作成する予定である。また、両学部の日本語教育一元化に向けて、新カリキュラムの準備を進めていきたい。